

あとがき

近年急激な科学の進歩により、社会がグローバル化するなかで、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、教育に対する期待や要求は以前に増して大きくなってきています。このような中で、子どもたちに求められているものは、学んだ知識を活用し、社会の中で自立し、社会の変化に柔軟に対応する能力であると考えます。

そして、学校におけるすべての教育活動は、学校の教育目標の具現化を目指す意図的な営みであると同時に、社会で自立できる人材育成も担っています。校内研究もまた、学校の教育目標を達成するためにどうすればよいかを全職員で追究する研究活動であるといえます。

本校では、「確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成」を研究テーマとして継続して掲げ、～本校児童に身につけさせたい力の定着に向けて（2年次：国語科「書くこと」を軸に）～をサブテーマに研究を進めてきました。授業はもちろんのこと、スピーチメモ、連絡帳への一言感想、週末作文、学習感想など様々な手立てを工夫して、「書くこと」の力の向上を目指してきました。結果、意欲的に取り組む児童が増え、成果物を明確に設けることで子どもたちの意欲向上と学習内容の明確化、単元を貫く言語活動を考えていくことの重要性が明らかにすることができました。特に、授業者だけでなく職員一人一人が研究テーマを念頭に組み組んだことが大きな成果に繋がったといえます。また平行して取り組んだ、学習の習慣を確立する取り組みでは、実態把握をした上で家庭の協力を得ながら、強化月間を設けたこと、がんばりカードを活用したことで、ある程度の実績は上げられたと思います。

今後、研究によって積み上げてきた成果を生かし課題を解決しながら、確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもを育てていくためには、日々の継続した実践を通してさらに研究を積み上げていく必要があります。当たり前のことですが、ともかく「継続は力なり」です。個々の継続した積み重ねを忘れてはなりません。一人一人がさらに自己研修・自己変革を図り、個々の指導力を向上させていきたいと思えます。

わたしたちの研究活動にあたり、直接貴重なご指導ご助言を賜りました県教育委員会、甲府市教育委員会をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます、まとめいたします。

教 頭 鷹野 幸雄